

## 教育実習研究室（柿沼芳枝先生）

### ▶柿沼先生はどのような研究や活動に取り組んでいますか？

- ・幼稚園教諭の経験を基に、よりよい保育環境や援助の在り方など保育の質向上を探究しています。幼稚園や認定こども園の先生方の研修にも積極的に関わっています。現在は、認定こども園の制度化に伴う課題や解決方策などの調査研究チームに所属して、よりよい保育の在り方について研究しています。
- ・授業では、「保育内容総論」、「幼児と言葉」、「保育内容の理解と方法D(言葉)」、幼稚園教育実習に関する科目などを担当しています。大学での学びを積み重ねて実習に臨み、実習での学びを振り返って理論と実践を融合するという循環の中で保育者として必要な力を培っていきけるようサポートしたいと思っています。

### ▶この研究室やゼミ（4年次）のことについて教えてください。

ゼミでは、各自の研究関心に基づいて研究テーマを決め、関連する書籍や論文を丁寧に読んだり、保育実践の観察、インタビュー、アンケート等の調査を行ったりして、自らの問いに迫ります。ゼミの仲間での交流も大切にしています。話し合う中で互いの研究関心を理解し、情報提供や意見交換を行いながら、自分の問いに対する考えを練っていきます。単に答えを見いだすことをゴールにするのではなく、一つの物事をいろいろな角度から捉え直し思考する過程を大切にしたいと考えています。ゼミの仲間と保育について語り合った経験は、就職後に職場の先生方と協働しながらよりよい保育を創り出していく姿勢につながるものと期待しています。

#### [過去の卒業研究テーマの例]

保育における絵本の読み聞かせに関する研究／パネルシアターの教材特性を活かした演じ方の工夫について／子どもの絵本と魅力的な環境構成に関する考察／子どもの学びと育ちの過程に関する考察—「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点として—／保育教材としての積み木の変遷／幼稚園における運動会の変遷について



#### [ゼミ生の声]

卒業研究では、子どもと絵本の出会いという視点で、子どもが自ら手に取る絵本の環境構成について考えました。卒業後は、保育の中で子どもの心が動かされる場面をたくさん生み出していきけるような保育者になりたいです。（2022年度4年生A.I.）

私は、小さい頃から好きだった「怪談」を保育に取り入れたいと思い、「保育における怪談の取扱いについて」という卒業研究に取り組みました。論文を書くことは、自分の保育観と向き合い学びを深める経験になりました。（2022年度4年生M.S.）